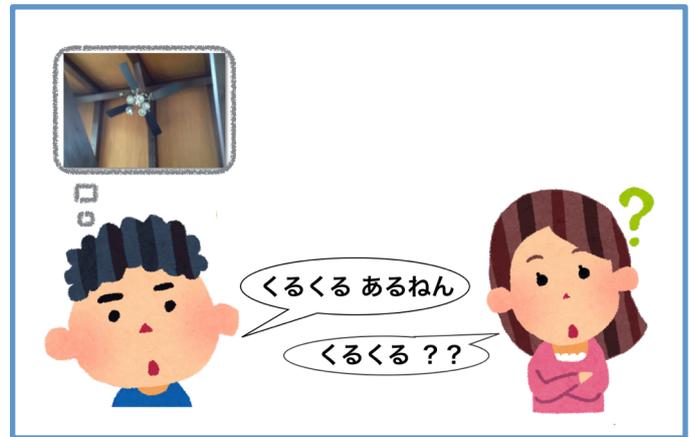


魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 日置節子 所属: 大阪府立寝屋川支援学校 記録日: 平成28年2月11日
キーワード: 「知的障害・自閉症」「社会生活」「コミュニケーション」「自己の振り返り」「他者理解」

【対象児の情報】

- ・学年 小学部4年生の男児
- ・障害名 知的障害を伴う自閉症
- ・障害と困難の内容
 - ・気になる物の名称や状況を相手に伝えたいが、言葉が思い浮かばず伝わりにくい。
 - ・抵抗感がある活動への不安が強い。「怖い・嫌だ」という気持ちが拭い去れない。



【活動目的】

・当初のねらい

＜コミュニケーションの目標＞

- 担任や保護者と「がんばったこと」「楽しかったこと」「怖かったがやりとげたこと」等を振り返りながら、より詳しく、状況や気持ちを表す言葉を盛り込んで話すことができる。
- 友達と場を共有しながら、学校で取り組んだ活動について言葉でやりとりできる。

＜苦手な活動への取り組みにおける目標＞

- 苦手な活動への取り組み始めに、活動内容をイメージすることができる。落ち着いて参加し、チャレンジした自分を肯定的に捉えることができる。

- ・実施期間 平成27年5月～2月11日
- ・実施者 日置節子 他クラス担任1名
- ・実施者と対象児の関係 クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

コミュニケーションの意欲はたかく、要求・経験・気持ちなどを2～3語の言葉で相手に向けて発信し、やりとりを楽しむことができていた。だが、話す内容やタイミングが唐突で、やりとりを続けることは難しかった。大人から少し詳しい質問を返されると、無言になったり違う話題に気持ちが移ったりした。経験したことを話すときは、「〇〇したよ」「たのしかった」などの内容が主で、表現が広がりにくかった。

「和太鼓（大きな音）」「人前での発表」「プール学習」など苦手な活動があり、授業が近づくと不安になったり、「〇〇いやだ～」などの言葉が増えたりした。やや聴覚に過敏があり、「大きな音がするにちがいない」と予測して和太鼓に恐怖心を抱いていた。人前での発表時は、自信が持てないこともあって嫌がったり固まったりしてしまったりしていた。昨年度のプール学習は、活動途中で泣いてしまうこともあった。

・活動の具体的内容

<コミュニケーションを広げることへの取り組み>

- ◎いろいろな活動（「かるた」「バイキング」「自転車」「地震避難練習」「カブトムシのようちゅう」など）の動画を担任が撮影し、それを題材にしたやりとり
- ◎自宅で保護者と一緒に動画を視聴
- ◎家庭での事象を写真に撮る宿題と、それを題材にしたやりとり
- ◎自ら友達や興味の対象を写真・動画に撮り、それを題材にしたやりとり

<苦手な活動に取り組んでいる自分を振り返る取り組み>

- ◎「和太鼓」「人前での発表」「プール学習」等の、苦手な活動を頑張っている動画を担任が撮影し、視聴

・対象児の事後の変化



<使用アプリ>
カメラ・写真

(1) 写真・動画を介したコミュニケーションについて

夏休みの宿題として、母親と電車で出かけたことを数枚の写真に納めていた。学校に着いてすぐに、「〇〇に行った」と言いながら、写真を表示してみせてくれた。「電車のってん」「イルカがいたところ」「ポテト食べた」「お母さんと」などたくさんの言葉でやりとりできた。

(9月～) 休み時間の教室で、友達や担任の写真を連写で撮影し、「〇〇くんやで」と見せにきたり、「〇〇せんせいうつてる～」と喜んだりするようになった。「友だちに見せておいでよ」と担任に声をかけられて、「ほら、〇〇くんやで」と普段あまり言葉を交わすことのないクラスメイトのもとへ、iPadを持って話しかけることもあった。

この頃から週末のiPadの持ち帰り時に、家庭での事象を写真に撮ってくるようになった。学校へ着くとすぐに写真を担任に見せ、簡単な説明をした。担任が質問を返すと、それに答えるようにやりとりができた。

(1月～) 動画撮影に興味を持つようになった。担任が教材として作成した動画を真似て、自分で被写体となる道具を用意するなど工夫し、繰り返し動画撮影を楽しんだ。また、その動画を「みてみて」と担任や友達に見せた。

(1月の中旬) 誕生会で、友達が得意なことを披露している様子を1分程度の動画で撮影した。その動画を、担任、友達本人に繰り返し見せ、「動画、とってん!」「みてみて、〇〇くん、誕生会やで」「〇〇くん、すごいでしょ」「ろうそく、消してん!」などと話し、繰り返し一緒に視聴した。被写体となった友達とは、普段あまり関わりがみられなかったが、動画を通して友達のがんばりを認めたり、褒めたりする行動に繋がった。

(2月現在) 「自分が頑張っているところを撮って欲しい」という気持ち、「友達の頑張っているところを撮りたい」「学校・家庭での気になる事を撮りたい」という気持ち、またそれらを、「担任や友達に見せたい・伝えたい」という気持ちを感じられるようになっている。



(写真 家庭で撮ったお気に入りのトミカの写真を見せながらやりとり
「トミカだよ、ここは車がまわるところ」)

(2) 自分を振り返る取り組みについて

①和太鼓

動画の撮影に至るまでに、和太鼓に慣れ、やってみようという気持ちになれるよう、和太鼓を使ったゲームを取り入れた。また、友達との、見せ合いをしながら叩き合う活動で、「かわいいけどやってみよう」という気持ちが芽生えてきた。その頃に、曲に合わせて「和太鼓」を叩く様子を、担任が撮影した。

< 動画への反応とその後の様子 >

動画をととても気に入って、休み時間に繰り返し視聴。また、帰りの会で友達に向かって「たいこです～」と動画を嬉しそうに見せた。友だちも一緒にそれを楽しんだ。また、休み時間に教室に来た他クラスの担任に「みてみて」と動画を見せて自慢した。

週末に「たいこのどうがをみて、いえのひととおはなしをする」という宿題でiPadを持ち帰り、保護者に見てもらった。何度も再生していたとのことだった。保護者からは「楽しそうで安心した」とコメントをいただいた。

週一回の和太鼓の授業が始まってから3ヶ月目。急に和太鼓をすることになっても、「いやや～」と言うことが減り、これまでよりもっとダイナミックに叩くことができた。

9月、運動会で和太鼓の音を近くで聞いても、「かわいいな」と数回つぶやく程度で、強い恐怖心は軽減した。



(担任撮影動画より：和太鼓を叩く様子)

②好きなこと発表 ～カブトムシの幼虫～

9月から教室で幼虫を飼い始めた。とても興味を持って、土から取り出して観察するのが毎日の日課になった。友達と一緒に幼虫を見ている様子を、担任が動画で繰り返し撮影した。

<動画での振り返りから、好きなこと発表の題材へ>

9月から12月頃まで、毎日幼虫を取り出して観察するのが日課になった。度々撮影される動画を気に入って、友達と一緒に繰り返し見返したり、保護者に見せて「何匹いるか」を説明したりした。

11月に、20人程の友達の前で「好きなことを発表する」という機会があった。「発表する好きなこと」を決める際、担任に「幼虫は？」と声をかけられ、即時に発表内容を「幼虫」に決めることができた。

発表当日、生き生きとした様子で飼育ケースから幼虫を取り出して、「〇ひきです」「幼虫です」と言いながら、友達の間を回って紹介することができた。またその動画を家庭でも見てもらい賞賛を受けた。



(担任撮影動画より：友達と幼虫の観察)



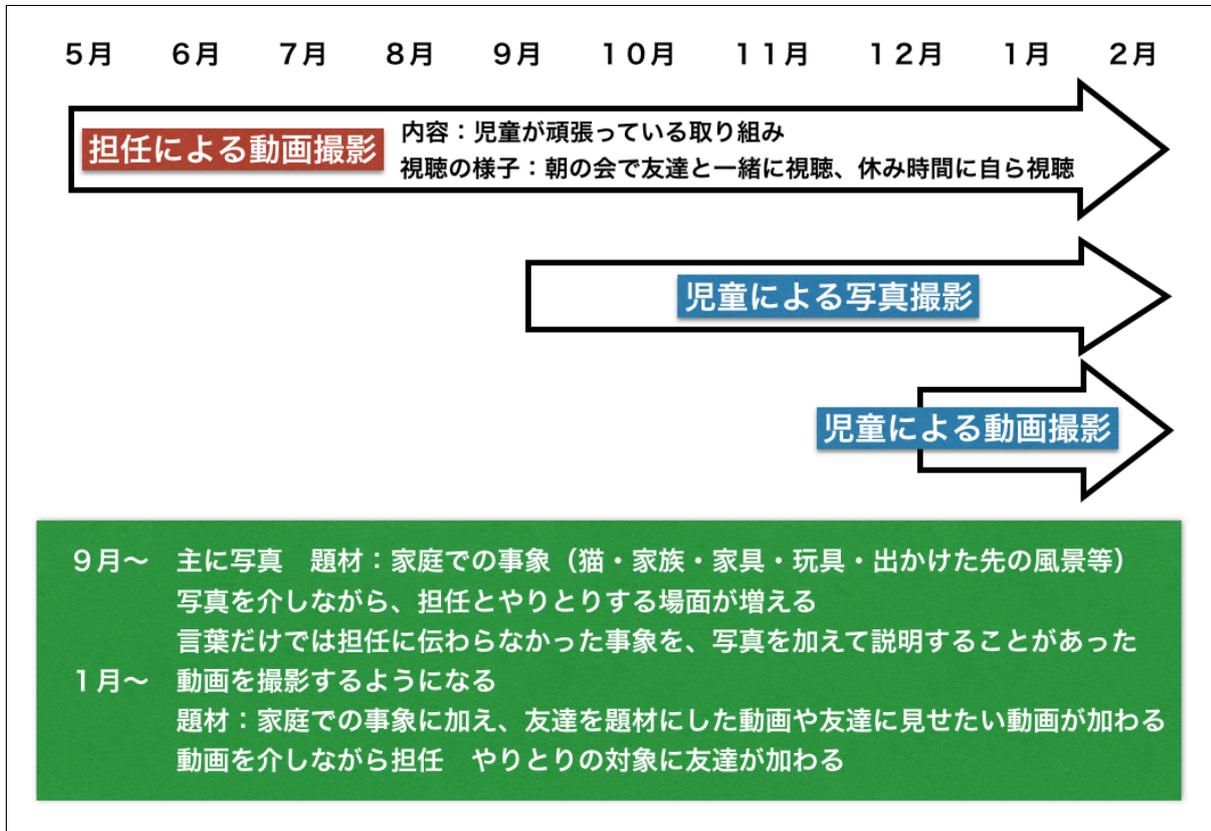
(担任撮影動画より：好きなこと発表)

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ◎iPadで撮った写真や動画は、児童の表現を補い「伝える手段」の1つになったのではないか。
- ◎動画で自分を肯定的に振り返ることが、苦手な活動への抵抗感を軽減させるのに役立ったのではないか。

・エビデンス(具体的数値など)



○時間の経過とともに、自ら写真、動画を撮影するようになっていった。それらを担任、友達に見せて言葉を添えて説明したり、担任からの質問に簡単な言葉で応えたりすることが増えていった。

○気に入った事象を言葉だけでは伝えきれない場合に、写真を撮影する様子が見られた。本児の言葉では「くるくる」としか表現できなかった「シーリングファン」について、本児が撮影した写真を介することで、名前に加え、それがあつ場所、その雰囲気等もやりとりできた。

○撮影手段に動画が加わり、題材に友達の様子が加わつていった。友達を撮影した後に、対象になつた友達を褒める言葉を言いつながら動画を見せることがあつた。

○自分が映つた動画の中で、特に気に入つたもの（和太鼓、幼虫など）は、繰り返し視聴し、他クラスの担任、友達、家族に見せた。実際の取り組みと、視聴の時期が重なつたので、おのずと賞賛を受ける機会が増えた。自分の姿を肯定的に、また繰り返し見返すことが自信に繋がつた。



(児童撮影写真：シーリングファン)
「これが、くるくるだよ。回るねん。」
(担任)「天井にあるんやね」
「そう、高いところ、電気つくねん。」

●動画の中で、「プール学習」は、気に入らず見るのを嫌がつた。担任は、プール最終日に、楽しんで水に浮かぶ様子を撮影したつもりだったが、本児の意に沿わない内容だつたと思われる。

・その他エピソード

「イメージに近い動画を創作する」という目的で、動画を繰り返し撮影するようになった。自ら iPad を意図的に操作し、アナウンスを加えたり、被写体となる道具を用意したりして動画撮影を楽しむ様子が見られた。この遊びが、被写体を的確に狙うなど、撮影テクニックの獲得に繋がった。



(写真：画面を揺らしながら動画をとってみる)

保護者からは、「iPad を使って話してくれると、内容がよく伝わってとても良かった。」と感想をもらった。今後は、撮影のマナーを伝えていくことも大切である。